



第4期

川崎区区民会議報告書(概要版)



平成 26 年 3 月 川崎区区民会議

「第4期川崎区区民会議」について

どんな目的で、誰が参加しているの？

- 暮らしやすい地域社会を目指して、地域課題の解決を図るために調査・審議をする会議です。
- 市民活動団体からの推薦、公募、区長の推薦などで選ばれた区民代表が参加しています。
- 第4期川崎区区民会議は平成24・25年度の2年間で活動しました。
- 2年間で計30回以上の会議、区民会議フォーラムの開催などを重ねてきました。

【第4期川崎区区民会議委員（任期：平成24年4月～平成26年3月 50音順敬称略）】

□ 藍原 晃（連合町内会）	鈴木 真（医師会）	原 千代子（区長推薦）
赤間 靖夫（まちづくりクラブ）	高橋 義光（区長推薦・～H25.4）	深澤 香織（区長推薦）
新井 一成（公募）	高橋 ロサ（区長推薦・～H24.11）	藤岡 玲子（海風の森をMAZUつくる会）
○ 新井トキ子（安全・安心まちづくり推進協議会）	知念ジョアンナ（区長推薦・H25.5～）	藤又 裕之（区長推薦・～H24.6）
□ 石渡 勝朗（保護司会）	◎ 寺尾 宇一（商工会議所）	森脇 卓郎（区長推薦・H25.5～）
岩瀬 絹代（公募）	富田 順人（社会福祉協議会）	吉野智佐雄（かわさき歴史ガイド協会）
木島 千栄（公募）	戸村 正房（かわさきTMO）	米山 実（文化協会）
小泉 忠之（民生委員児童委員協議会）	秦 琢二（PTA協議会）	

◎委員長 ○副委員長 □部会長

審議する内容はどやって決めて、どのように進めているの？

- 委員の意見、区民アンケートから抽出した地域課題から、話し合って5つのテーマを決めました。
- 決まったテーマを2つに分け、それぞれ専門部会を立ち上げて、集中的に調査・審議しました。
- 課題の現況を把握するための関係者ヒアリングやアンケート調査なども実施しました。

みんなのまちづくり部会

審議テーマ1：地域で身近な防災力

審議テーマ2：コミュニティバス導入の促進

すこやか・共に生きる部会

審議テーマ3：地域における健康の推進

審議テーマ4：子どもを地域で支える、子どもの生きる力

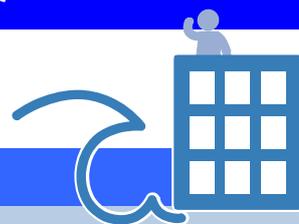
審議テーマ5：外国人市民も住みやすいまちづくり

審議した結果はどうなるの？

- 地域課題を解決するための「取組提案」としてまとめ、区長に報告しました。
- 提案は区と区民がそれぞれの役割と責任のもとで連携しながら、地域での実践につなげていきます。
- 第4期川崎区区民会議では、「海拔表示板の設置」の提案がすでに実現したほか、地域で子どもに関わるをしている活動団体同士の情報交換会などのモデル実施も行いました。

「第4期川崎区区民会議」の提案

審議テーマ1 地域で身近な防災力



提案：海拔表示板の設置

地域課題：市内で唯一海に面している区として、津波に対する区民の防災意識の向上

提案内容：区内全域の町内会・自治会の掲示板などに「海拔」と「浸水深（大地震発生の際に津波の最高到達点と想定されている高さ）」を記載した表示板の設置（外国人市民にも配慮した多言語表記）

取組状況：アクリル製のプレートが作成され、町内会・自治会掲示板等を中心に平成25年度から順次設置されています。



提案：「防災出前講座」の開催

地域課題：区民の防災知識（特に区民の不安が指摘された臨海部の防災対策など）の向上

提案内容：臨海部の行政機関や企業の災害対策などを伝える講座の開催（講座は区民の集まる場所に講師を派遣する「出前方式」で開催）

取組状況：平成26年3月に殿町小学校で最初の講座が開催されました。



提案：外国人市民を対象とした防災訓練の実施

地域課題：川崎区には、市内の約3分を占める様々な国・地域の外国人市民が居住。防災知識に乏しかったり、言語や生活習慣の違いなどから、災害時に弱者化や孤立化の恐れのある外国人市民に対する防災対策の推進

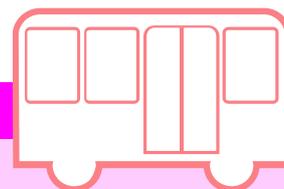
提案内容：外国人市民を対象に災害の実態や防災情報を伝える防災（避難）訓練の開催。地域の人と外国人市民が知り合い、いざという時に互いに助け合える関係・環境づくりの推進

取組状況：平成25年11月の区民会議フォーラムで外国人支援などの活動に関わる団体との意見交換を行い、実態やニーズの把握に努めました。また、平成26年3月に区内で開催された外国人を対象とした健康診断の場で防災情報の提供を試行しました。



第4期 川崎区区民会議の提案

審議テーマ2 コミュニティバス導入の促進



提案：福祉や生活環境の向上につながるバス路線

地域課題：区内移動交通手段の改善による福祉や観光、生活環境の向上

※第3期川崎区区民会議からの継続審議課題

提案内容：区内公共施設や商業施設、医療施設などを巡回する以下のような路線ルートを設定し、そのニーズを把握する試走体験会、アンケート調査などを行いました。その結果、十分な路線ニーズが認められなかったため、区民会議での審議は第4期で終了することとしました。

ただし、区民の路線要望（区内横断路線や川崎駅東西接続路線）や、地域の高齢化などから、バス路線の計画策定などの際には、福祉や観光、生活環境の向上に関して十分に考慮する必要があります。



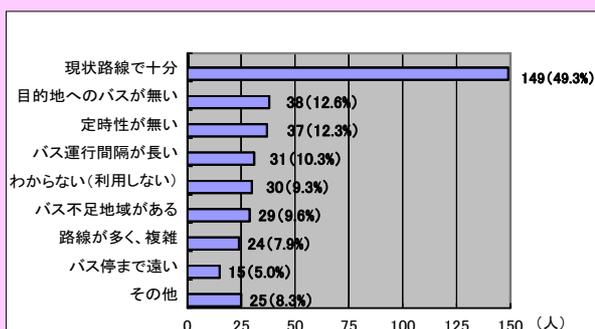
取組状況：地域交通に関するアンケート調査結果（一部・無作為抽出区民1000名・有効回答302通）

- ・「利用する」回答者は全体の半分だった、その頻度は少ないほど回答が多かった。
- ・現状のバス路線で十分という人が約50%で最も多かった。

提案路線の利用頻度

回答	回答数(人)	回答率
年数回	44	14.6%
月1・2回	39	12.9%
週1・2回	33	10.9%
週3・4回	18	6.0%
平日毎日	10	3.3%
その他	4	2.0%
	154	51%

現状路線バスについて



第4期 川崎区区民会議の提案

審議テーマ3 地域における健康の推進

提案：予防接種の接種率の向上に向けた取組

地域課題：予防接種の接種率が低い「川崎区の子どもの予防接種の接種率」の向上

提案内容：予防接種の接種率向上につなげる効果的な広報の実施
予防接種の重要性などへの理解を深める取組の実施

取組状況：予防接種に関するアンケート調査の実施（区内の小学6年3校、中学3年3校）

- ・接種が望ましい年齢が高い予防接種ほど接種率が低かった。
- ・予防接種に関する情報の入手方法でもっとも多かったのは「区役所からの通知」であった。

※アンケート調査の結果を参考に提案内容を検討しました。



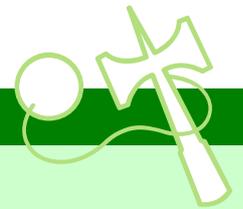
審議テーマ4 子どもを地域で支える、子どもの生きる力

提案：地域の活動団体同士の情報共有や連携

地域課題：地域で子どもの成長・健全育成を支える環境づくりの推進

提案内容：子どもに関わる地域活動団体同士の情報共有や連携の仕組みづくり

取組状況：大師地域において、子ども文化センターを会場に地域の子どもの関わる活動団体の代表が集まった情報交換会を開催しました。今後も年数回を目途に開催の継続を目指し、連携の可能性や他団体への声掛けなどについて、引き続き探っていくことが確認されました。



提案：共通のツールを活用した世代間交流の推進

地域課題：地域での世代間交流の場づくりの推進

提案内容：子どもと高齢者が一緒に楽しんだり、学んだりすることのできるツールを活用した世代交流の場の提供

取組状況：田島地区を中心に行われているニュースポーツ「カローリング」が世代交流の推進にも資している実績を踏まえ、新たな他のツールの検討を進めました。

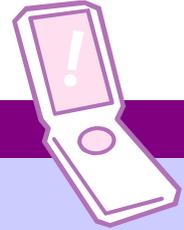
平成25年11月に開催した区民会議フォーラム中の企画の一つとして、高齢者を講師とする囲碁・将棋体験教室を開催しましたが、当日は参加者数名にとどまりました。

この結果から交流の場を検討する上では、より多くの参加者を集める有効なツールや呼びかけなどの工夫が必要なことが検証されました。



第4期 川崎区区民会議の提案

審議テーマ5 外国人市民も住みやすいまちづくり



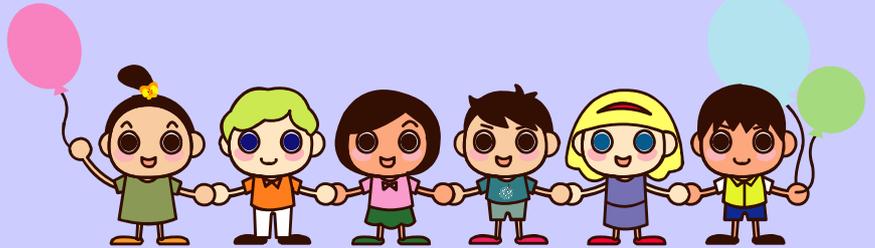
提案：多言語(6ヶ国語)窓口問答集の作成

地域課題：区役所窓口での外国人市民への効果的な情報伝達

提案内容：6ヶ国語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語)に対応した区役所における窓口問答集(Q&A)の作成

取組状況：・区役所窓口の職員へのアンケートを実施し、相談内容や対応実例の把握に努めました。

- ・他区で導入事例のある「TV通訳(対面式多言語案内)システム」の調査を行いました。費用対効果や利用実績の面から、今後も経過を見守るにとどめました。
- ・外国人市民の側から見た課題把握の必要性が指摘され、作成に当たっては、アンケート調査の実施や外国人市民を対象としたヒアリングの実施などについて提案が出されました。



区民会議フォーラム

平成25年11月23日(土)

教育文化会館

参加者115名



区民会議審議内容報告



コミュニティバス試走体験



外国人市民の災害対策の検討



囲碁で世代間交流



ポスターセッション



講演「認知症予防と運動」

第4期 川崎区区民会議報告書(概要版)

発行：平成26年3月

事務局：川崎区役所まちづくり推進部企画課

〒210-8570 川崎市川崎区東田町8番地

電話 044-201-3296 FAX 044-201-3209